

## 令和2年度7月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和2年7月1日（水）午前11時00分～11時45分

場所 市役所2階 第3委員会室

出席 市政記者クラブ9社

### 会見内容

#### 1. はじめに（1項目）

- まずは、色々と自粛解除になりながらも、様々な活動を展開するにあたりまして、これからも新型コロナウイルスの感染防止をしっかりと進めていくことが大前提になります。
- 市内の感染症指定病院の方もしっかりとした体制をとっておりますし、保健所におきましても、検査を継続しながら進めております。
- この約2カ月間の釧路管内での感染者数は1人ですので、しっかりと感染を抑えられていることは、本当に皆様のご協力の賜物だと思っております。
- この間も病院の方では、しっかりと機能を維持しながら対応を進めているところであります。また、高齢者施設等では、日々、緊張感を持ちながら対応しているということでありまして、そのような実態がまだあるということ、多くの方々が認識しながら対応を進めていくことが重要になると思っております。
- このような体制を取りながら進めていることを踏まえ、市民の方々が、様々な活動、展開を続けていっていただけるような流れを作っていければと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

#### 2. 話題提供（2項目）

##### 1. 釧路市エール商品券の予約購入申し込み再開について

- はじめに、釧路市エール商品券の予約購入申し込みの再開についてです。
- 釧路市エール商品券の予約購入申し込み受け付けを6月22日に開始いたしましたところ、6月26日時点で、飲食店専用、物販等専用共に、各5万冊の上限冊数となりました。
- そこで、釧路市プレミアム付商品券事業実行委員会と調整を行い、新たに飲食店専用を5万冊、物販等専用を10万冊増刷することを決定いたしました。
- このたびの増刷分のスケジュールが実行委員会で決まりましたので、お知らせいたします。予約購入申し込みは、7月10日（金）から再開いたします。
- 予約購入申し込みの案内のチラシは、同じく7月10日（金）に全戸配布されると同時に、10カ所の商品券販売所や郵便局等にも設置する他、市役所と各支所にもチラシを設置することとなっております。
- 増刷分の商品券の引き換えは9月1日（火）から9月18日（金）までとなっております。

- 商品券の利用期間は、7月15日（水）から年内12月31日（木）までとしておりましたが、今回、増刷分の引き換え期間が9月に入るということもあり、増刷分の利用期間の延長を検討しております。
- このような時期ですので、いち早く引き換えをしていただいで、消費をしていただくことが重要であると思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。
- 釧路市エール商品券は、特に飲食店専用につきましても、これだけ予約が多いということは、お店の方々にとっての応援に繋がっており、多くの方々バックアップしてくれているということで、お店の皆様からもがんばっていきましょうといったお声を寄せていただいております。このような一つひとつの活動が、お店の方々、事業者の方々にも届いていると思っております。

## 2. 新型コロナウイルスの影響を受けている観光関連事業への様々な施策について

- 続いて、新型コロナウイルスの影響を受けている観光関連事業への様々な施策についてです。
- はじめに、「釧路の元気」プロジェクト支援交付金事業の実施について、お伝えいたします。
- 新型コロナウイルスの影響によりまして、「港まつり」や「くしろ大漁どんぱく」など、各種観光関連のイベントが中止となっておりますことから、しっかりと感染防止対策をしながら、色々なところでの動きを進めていきたいといったお話をたくさんいただき、このたび、市が設けた支援交付金制度を活用していただいで、色々な動きを進めていこうというものです。
- 本事業は、公募型で、条件といたしましては、
  - ① 多くの釧路市民が楽しむことができ、市民・事業者・行政が連携し、地域の活性化に繋げていく「域内連携」の考え方に資すること
  - ② 7月～9月にかけて実施され、採択後、速やかに実施できること
  - ③ 新型コロナウイルス感染症拡大を防止する対策を講じ、安全・安心に開催できることとしております。
- 本事業の予算は、1,000万円以内としており、募集期間は6月24日（水）から明日7月2日（木）までとなっております。
- 提案のありました事業については、来週7月7日（火）に審査会を実施し、翌日に採択団体に通知する予定となっております。
- 続いて、釧路市ホテル等宿泊促進支援事業についてです。
- 本事業は、新型コロナウイルスの影響により利用者が減少している釧路市内のホテルや旅館等において、道内在住者の宿泊を促進することを目的として、市と連携し、誘致に取り組む宿泊施設への助成する事業となっております。

- 対象施設については、ホテルや旅館、民泊施設であること、また、宿泊する道民に対し、割引や食事の提供、施設内の飲食店利用など、3,000円相当のサービスを提供いただける宿泊施設を対象としております。
- 国の「Go To キャンペーン」や、北海道の道内旅行割引「どうみん割」の施策に合わせ、切れ目ない支援が図れるように取り組んでおり、先月6月26日（金）から8月31日（月）までの宿泊を対象としております。
- このような形で、多くの方々のお力をいただき、感染防止対策を行いながら、活性化し、経済を戻していくために取り組んでいくものであります。
- 最後に、地元産品販路拡大事業についてです。
- 釧路市物産協会が実施しますWEB物産展「北海道くしろ物産百貨店オンラインショップ」が、6月20日より販売を開始いたしました。
- 本事業は、新型コロナウイルスの影響を受けて、全国の百貨店で開催されております北海道物産展の中止が相次ぎましたことから、厳しい経営状況に置かれた地元事業者を支援することを目的に、釧路市物産協会が実施しますWEB物産展による販路拡大事業へ、市が補助するものであります。
- オンラインショップでは、釧路の特産品をワンボックスにまとめたオリジナルセット商品を販売しておりますので、この機会に、市民の皆様や全国の物産展ファンの皆様をはじめとした多くの方々に、釧路の逸品を味わっていただきたいと思っております。
- 皆さんがWEBで購入していただくものもありますし、地元の方が他の地域に送られることもあると思います。
- これまで感染防止ということで、色々な経済活動が止まったところであります。その部分をどのようにこれから戻していくのかという観点で、今まで築き上げてきた信頼や、物産の場合についても、このようなものをベースにしていきながら、従前のように回転できるように進めていけたらと、本事業を行っているところであります。
- 今後、色々な事業等につきましては、二次の交付金等を受けながら、また色々な状況、ご意見もいただきながら、さらに進めてまいりたいと考えているところであります。

### 3. 質疑要旨

(質問)

- ・ 「釧路の元気」プロジェクトについて、明日までの応募ということですが、これまでどのぐらいの応募が来てきておりますでしょうか。

(観光振興室長)

- ・ 本日現在で、3団体からの提案が来ております。

(質問)

- ・ どの事業が決まったということは、お知らせいただけるのでしょうか。

(市長)

- ・ 7日に審査会を行って、翌日8日に採択団体に通知することになっておりますので、通知と同日の8日に発表いたします。

(質問)

- ・ ステイクシロキャンペーンについて、改めてどのような効果を期待しているかを教えていただけますでしょうか。

(市長)

- ・ 涼しい釧路や多くの自然・食も含めて本市に来ていただいておりますが、人の移動が止まり、大変大きな打撃がありました。移動の自粛が解除になったところではありますが、以前の海外から来ていただいた観光客の皆さんにつきましては、国の方がまだ規制を継続していることから難しい状況です。そこで、釧路市内が、若しくは北海道が、一緒に応援しながら復活していこうという考え方でありますので、我々もしっかりと支援していくということであり、本当に多くの方々が、ここに同調、応援をいただいているということで、大変うれしく思っているところです。私どもの中小企業基本条例のまちづくりのベースにも、域外貨の獲得ということがあり、このような状況の中でこそ、周りと共に協力し、維持しながら進めていける事業であると考えております。あわせて、北海道の方は6,000円からであります。市内にはもっと安価に対応しているところがありますので、非常に皆さんには好評な仕組みであると思っております。

(質問)

- ・ 道民割では、対象外となるビジネス利用と、6,000円以下の宿泊も対象になるということで、かなり使い勝手を良くされていると思うのですが、観光とビジネス両方で幅広く使ってもらおうという狙いであるということでしょうか。

(市長)

- ・ 基本的には道民割の場合は、6,000円からとなっておりますが、市内を見ていくと、その設定に届いていない所がたくさんあり、また、新たな旅行の形態としての民泊、ゲストハウスを含めた街の中の状況があります。我々の地元の実態を踏まえた中で進めていこうという作りです。幅広く色々なところを活用するのであれば、道民割や、この後の国の事業も始まりますが、地域のところを地域の中で支えながら進めていく仕組みと認識しております。

(質問)

- ・ これは、道民であれば全員対象なのでしょうか。年齢制限はないのでしょうか。

(観光開発主幹)

- ・ 普通料金で泊まれる方を対象としているので、いわゆる子ども料金は、除外となっております。お子様でも普通に1泊の室料を払うのであれば、3,000円の対象となります。

(質問)

- ・ 宿泊施設側も、まだ参加できるのでしょうか。

(市長)

- ・ 現在52件が対象の施設となっており、随時、受け付けております。

(質問)

- ・ 釧路市エール商品券について、26日で上限に達したということで、とても関心が高いと思うのですが、すぐに売り切れたことについての市長の見解と、増刷分の引き換えが9月からということですが、その理由があればお聞かせください。

(市長)

- ・ 4日間で商品券の予約が終了したことについては、見込みが違ったということになります。逆に、このような状況の中で関心が高まっていることは、次に繋がりますので、多くの方にバックアップしていただき、また、利用される方自身の支援になるものでありますので、速やかに増刷の対応をしたということでもあります。

(産業振興部次長)

- ・ 引き換え時期は、冊数の印刷の関係もありまして、そのような時期になったと聞いております。なるべく早くという努力した上での結果であります。

(質問)

- ・ 釧路市エール商品券について、増刷分の利用期間を12月31日より延長を検討しているということは、増刷分と最初に作った商品券とは、何か見分けがつくようにデザインを変更されるということでしょうか。

(産業振興部次長)

- ・ 当然、判別ができるように、使用期限が分かるよう配慮されるものと考えております。

(質問)

- ・ 本日、津波高の1回目のワーキンググループの会合があり、市長もWEBでご出席されるということですが、防災対策等、被害の想定の部分で、釧路だけでなく北海道の沿岸自治体の代表として、どのようなことを訴えていきたいと考えておりますか。

(市長)

- ・ 本日午後3時から第1回目の会議が開催されるところであり、道内自治体からは、北海道知事と私ですので、現実的なところを話していきながら、どのような対応をとるのかしっかりと発言していきたいと思っております。南海トラフのワーキンググループでの取り組みを見ながら、やはり自治体の役割は現場でありますので、そこをしっかりとっていくことが必要であると思っております。例えば警報基準について、気象庁の発表と避難の現実とを踏まえた時に、気象庁の大津波警報は3m以上となっております。レベル1のハード面でしっかりと対応する500年間隔も、レベル2の北海道の想定も大津波ということになります。レベル1であれば避難対象者が数千人、レベル2になると約12万人となります。つまり大津波警報が出ると、500年間隔のレベル1の津波の状況でも常に12万人が避難対象ということになります。これは、北海道やそれぞれのところで色々な検討をしながら進めていることですが、発表されるものは気象庁の警報だけとなっているのです。このような現実的な話もしながら、積雪寒冷地であることや地域の中での色々なご意見、我々がどのような取り組みを行ってきて、これからどのようにしなければいけないのかといったことも話し、地域の安全・安心、住民の命を守ることにしっかりと結び付けていきたいと思っております。そのためには、必要な財源対策等もしっかりと進めていきたい。地域によって違いますから、釧路の実例、現実を出していきながら、進めていければと考えております。

(質問)

- ・ 財源対策は、国にそのような有利なものを求めるということでしょうか。

(市長)

- ・ 例えば、南海トラフ地域には地震対策特別措置法による財源対策があり、このようにところも議論していくことが重要であると思っております。強靱化計画も、

札幌市と釧路市が北海道で最初に作り、今、第二期の北海道強靱化計画がスタートしたところであります。リスクシナリオでしっかり状況を押さえておりますから、それに合わせてどのような対応をするかということが強靱化計画になっております。私どもも、いち早く作ってきましたので、そことマッチングさせるということで対応策が練りやすくなると思っております。

(質問)

- ・ 財源措置のところ、特措法のお話もありましたが、やはり巨大な津波が来た時の避難先確保の財源措置、そこへの補助率に係る要望になりますでしょうか。

(市長)

- ・ そのようなものも含まれますが、やはり被害想定のことを踏まえた中で、どれだけの対策を講じていくのかということになります。被害が大きいから対策を講じるのかという、そのようなプラスマイナスという形とは違うと思いますが、しっかりと防災意識を高めていくことだと思っております。ただ、その中で、先程からお話をさせていただいているとおり、津波レベルの件になります。レベル1については、ハードを含めしっかりと対応する考え方があり、レベル2は想定外を作らない、命を救うということで、国においては、国民一人ひとり、我々は市民一人ひとりの命を救うといったことを主眼としているものです。レベル1についても命を救うということで、避難優先にしなければいけない議論もあることは承知しておりますが、基本的にはそのような形になっております。命を救うためには、どのようにするかということですので、被害総額というお金の問題ではなく、国民一人ひとりの命ですから、発生可能性があるということには、いち早く対応していかなければいけないと考えております。そのためには当然予算が必要になってくるものです。防災対策をいち早く対応しながらも、市民生活や経済活動も確保していくことが必要でありますので、この財源対策をしっかり求めていきたいということでもあります。

(質問)

- ・ 長期滞在のことについて、今年、新型コロナウイルスの影響が大きく、現段階で、例年と比べての状況はいかがでしょうか。

(総合政策部長)

- ・ 昨年までの問い合わせよりも多く聞かれているのが、「行ってよろしいでしょうか」といった内容で、例年と違う状況であると受け止めております。ただ、お問い合わせは来ておりますし、先日、開催したくしろ長期滞在ビジネス研究会の中でも、官民挙げての取り組みとして、感染防止対策をしっかりと施した上で、受け入れをしていく確認を行っているので、そのような点では、様々なガイドラインが出ているところを受け止めながら進めていくということでもあります。昨年度の実績は、今までで最高の受け入れをしたという数字がありますので、いい流れは、続けてまいりたいと考えております。

(質問)

- ・ 実際は、それよりも減りそうなのか、増えそうなのかということにはわかりませんでしょうか。

(総合政策部長)

- ・ 今年度は減ると思われまます。

(市長)

- ・ ツアー関係の影響もあります。しかしながら、長期滞在に来られる方々とは人間関係ができておまして、先程もお話でありましたように、「今、釧路に行った

ら迷惑になるのでしょうか」といった連絡が入っている状況であります。落ち着いた9月、10月ぐらいに、どうしても色々なものを食べたいので、その時期ぐらいに行きますといったお話など様々です。トータル的に言えば、やはり影響は大きいので減る形になると思います。

(質問)

- ・ 受け入れ側としての対策等は、どのようなことがありますでしょうか。

(総合政策部長)

- ・ 感染防止対策については、様々なガイドラインが示されており、それぞれの事業者の物件や、ツアー受け入れをする際には、ソーシャルディスタンス等といった配慮をしっかりと実施していくということを、官民のビジネス研究会の中で確認されていることを聞いております。

(市長)

- ・ 今後は、8月1日からのピーチの成田線就航により、路線の充実や安価なことから、来釧者の増加に期待しております。

(質問)

- ・ 「釧路の元気」プロジェクトについて、募集しているものは、基本的にイベント開催に係る事業を募集しているのでしょうか。

(市長)

- ・ はい、そうです。

(質問)

- ・ 密にならないようなイベントといったことは、審査基準に入るのでしょうか。

(市長)

- ・ 感染防止対策を行うことは、大前提です。7～9月の皆さんが楽しみにしている色々なイベントが無くなりました。全国的な大きな流れの中で、そのような状況です。そのような中で感染防止をしっかりと行い、地元で元気を出していくようなことを進めていきたいということです。色々な団体の方々から、私たちはこのようなことを開催したい等、様々なニュースも出ております。それらについて、我々もバックアップをしていながら、街の中で色々な動きを行うというものであります。

(質問)

- ・ ピーチの成田線の就航について、地方空港として2路線飛ばすことは、なかなか珍しい状況です。ピーチとしても、その決断があったと思いますが、この点の受け止めについてお願いいたします。

(市長)

- ・ 8月1日からの成田－釧路の就航は、このような状況の中で、明るいニュースが出せたと思っております。一昨年、ピーチさんによって関空と釧路が繋がれ、1年ぐらい前からピーチさんには、成田－釧路の就航をぜひというお話をさせていただいておりました。背景的には、ピーチとバニラエアがありまして、ピーチは関空拠点、バニラエアは成田拠点ということで、そこが統合する中で、これからピーチの戦略として、バニラエアの航空機の機体をどのような形で展開していくのかということがありましたので、本社の方にご相談をさせていただいていたところでありました。その後、担当でもそのような打ち合わせ等を行ってきただけですが、新型コロナウイルスの感染拡大で止まった状況でありました。しかし、このような状況の中、ピーチ本社で井上社長から森社長に代わられた中でも、要請内容について、しっかりと受け止めていただいて、釧路への新規路線就航で新た

にスタートする会社にとっても、大きな決断をしていただいたと受け止めているところです。このたびの成田線をしっかりと維持し、基本的には3年間で定着する路線にしていくために、関西線の時のように取り組みを進め、素晴らしい決断をしたと言われるように結び付けていきたいと考えております。

(質問)

- ・ 3年間で定着といいますと、今、関西線で行われている支援策を、成田線でも行っていくということでしょうか。

(市長)

- ・ もちろん、実施します。これは、国の仕組みや道の仕組み、市の仕組み等、個別の中で実施していくもので、同様の形で取り組んでいきます。

(質問)

- ・ 関西線の実績がとても良いことが、このたびの就航の一つの理由になっております。しかし、関係者からは、関西線の利用者が減り、その分が成田線に移って分散してしまうのではないかという声もあるのですが、釧路からの送客についてのお考えはありますでしょうか。

(市長)

- ・ しっかりとPRしていく形になると思います。経済でも同じことが言えると思いますが、需要というパイを固定的に考えるのではなく、パイを増やすことを考えております。そのためには、社会資本や路線もそうであります。限られた中でそれをどのようにするのではなくて、増やしていくという考え方です。そのためのこのたびの新規路線であります。ピーチの場合も、釧路には今までの客層と違うピーチ女子という若い人たちがやって来ることを想定していましたが、シニア層の方が多かったのです。この時にもピーチの中では、新たな顧客を開拓でき、本来想定していた若い人ではなく、このような形のところで就航することによって、シニア層の方々に多く乗っていただいているというお話がありました。このように需要を作り上げていくことが重要であると考えており、3年間という時間でしっかりと盛り上げていくことができればと思っております。関西空港の時も、色々な対応について取り組んできました。そのような中で、常に動向を見ていながら定着を進めていき、あわせて市民の方々も利活用が増えていくような発信を進めていければと思っております。需要を作り上げていけば、釧路市のみならず、管内からも色々な活用ができると思います。

(質問)

- ・ 関西線では、女子旅がターゲットになるのではないかとされておりましたが、なかなかそのようなこともなく、実際にはシニア層や家族連れが多いということでしたので、まだ新規顧客の掘り起こしができるということでしょうか。

(市長)

- ・ そのように考えております。既存の客層、顧客以外が来てくれたということは、パイが増えたということです。それであれば、本来想定していた方々にも乗ってもらえば、もっと増えるという考え方です。今までメインとなる方々がいなければ少なくなるはずですが、しかし、そうではないシニア層の方々に来ていただいているということは、その間に、本来、今まで活用していた方々にターゲットを合わせ、パンフレットや発信等を充実させて進めていけるといった考えを持っております。